
2度目の人生

you

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

2 度目の人生

【Nコード】

N4030Z

【作者名】

you

【あらすじ】

猫を庇って死んだ主人公が転生先で色々するはなしです。

まじっすか！

どこだよここ・・・
目を開けると真っ白い空間にいた。

『お！目が覚めたか。』
そして俺の目の前にはよぼよぼな爺さんがいた。
なんで爺さんなんだよ・・・はあ、こついつ時は綺麗なお姉さんと
か幼女とかじゃねえの？

『悪かったなよぼよぼな爺さんで』
あれ？声にだしてたっけ

『まあ、わしは神だから心を読むことぐらい簡単じゃ』
まじっすか！

「んで、何で俺はここにいるんだ？」
「それはお前が死んでしまったからじゃ」

え？

「嘘だ！」

『本当じゃ・・・お前はトラックにひかれそうな猫をたすけて死んだのだ・・・』

はあ、まあいいんだけどさ・・・まだやりたいこと1個だけあった
な・・・

『やりたい事とは？』

「プリンに醤油かけて食ってみたかった・・・」

『・・・別にプリンに醤油かけたってプリンと醤油の味しかないぞ』

え？まじで？ならいいや。

つーか何で俺はこんなところにいるんだ？

『そうじゃった・・・お前が助けた猫はわしのペットでなく、たすけてくれたお詫びとして転生してもらおうとおもってだな。』
転生するのはいいがどういいう世界なんだ？

『魔法のある世界じゃ』

よっしやあああああ！

めっちゃ面白そうやん！

『んで、転生する前に3つぐらい願いを叶えてやろうと思ってだな・・・ねがいはなんだ？』

願いか・・・

1つ目は身体能力をかなりあげてくれ

2つ目は魔力無限

3つ目は・・・あっちの世界に剣ってあるのか？

『もちろんあるぞ』

じゃあ3つ目は絶対に折れない刀で

『わかった・・・では転生させるぞ』

なんか・・・急に・・・ねむ・・・く・・・なっつて・・・き・・・た。

入学式（前書き）

生暖かい目でみてください

入学式

いやあ、無事に転生できたのは良かったんだけどさ・・・
赤ん坊からってどうなのよ・・・ちなみに今は1歳ね。

「アルス〜オムツ取り替えましょうね〜」

2時間に1回オムツの取替にくるって・・・

「あうあああああ（やめて、俺のライフはもう0だ！）」

「これでよし！」

もうお婿にいけない・・・言い忘れてたけど俺の名前はアルスⅡグ
ランドっていうんだ

そっぴや俺の絶対に折れない刀ってどこにあるんだろ・・・まあ今
度でも探せばいいか。

はあ時間ってこんなに経つのがおそいんだな・・・

—————
—————
—————
そして14年の月日がたった

「アルスおきなさ〜い！今日は入学式でしょ。」

「へ〜い」

今日は有名なオアース魔法学園の入学式だ！

あ、ちゃんと受験はしたぜ・・・ぎりぎり合格だったんだ・・・あ
と1点でも足りなかったら落ちていた。

「早く朝ごはん食べていきなさい、遅刻するわよ。」
うお、もうこんな時間か早く行かないと。

「いつてきまゝす」

そうそう、この14年の間に何を学んだかというとな、この世界の事と文字、魔法の事だ。

この世界のことは・・・簡単に言うと、なんか魔王つてやつがいて世界中の人を苦しめてるっていう事とぐらいかな・・・それ以外は地球とすこし違うぐらいだな。

文字覚えるのは大変だったわ・・・地球の文字を知ってるからそれに慣れてしまつて何回もまちがえたわ・・・覚えるのに10年かかったわ・・・

魔法には火、水、風、土、雷、聖、闇という属性があり、1人2つぐらい属性があるらしんだ・・・たまに3つ使いこなせる人もいるみたいだがな。聖と闇は特別みたいだ・・・くわしいことはわからない。

それと刀はまだ見つかっていない。どこにあんだよ！

30分後

よし、ついた。ここがオアーズ魔法学園か・・・まあ、来るのは2度目だけだね！

ん？校門に新入生は体育館にお集まりくださいっていう紙が貼ってある。

というわけで体育館につきました

校長先生の話がはじまった

30分後

長いつ！

まあ、校長先生の話つてどの学校もながいよな・・・はあ、なんかイライラしてきた・・・

さらに30分後

こんなに長く話してもまともいきいてるやつなんているわけねえだろ！生徒のこと考えるよハゲが！

1時間後

「これで校長先生のお話を終わります。」
やっと終わった・・・長い戦いだつた。（睡魔との戦い）

今俺は自分のクラスに向かっている。

この学園には、A～Eの5クラスあって入試の点数が高い人順にA～Eに入るそうだ・・・ちなみに俺は最下位だからEクラスだ・・・
クラスに入って自分の席に座り（窓際の一番後ろ）ぼーっとしていたら、いろんなところから校長の悪口が聞こえる「あのハゲが」とか「話し長すぎだろあの短足」とか「死ぬくそじじい」とか「馬みたいな顔しやがってとか」とか・・・まあ、あんだだけ長く話してれば嫌われるだろうな。

ガラッ

「席につけー」

女の先生が入ってきた・・・先生ちつちえーな・・・バゴッ！・・・頭をファイルで殴ってきたしかも角で・・・

「今、先生ちつちや！って思ったでしょ？」

「イイエ、ソナナコトハアリマセン」

「そう？」

いてえ、なんで思ったことがバレるんだよ・・・顔にでてたか？・・・
クラスのみんながドンマイって感じで俺を見てくる・・・

「私はミカニスイツといいます。趣味は読書で、好きなモノは牛乳
です」

牛乳か・・・ミカ先生がこっちを睨んできた・・・こええええ

「じゃあ一番右前の席の人から自己紹介してください」

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
・・・やつと俺の番だ。

「俺の名前はアルスニグランド、趣味や好きなモノは特にありませ
ん」

「全員自己紹介終わりましたし、今日はここで終わりです明日から
はちゃんと授業に入ります忘れ物はないようにしてくださいね。そ
れではさようなら」

やつと終わったよ・・・てゆうか、まだ頭が痛いんですけど・・・ど
んだけ強く殴ったんだよ。

あ、ちなみに俺の帰るところは学生寮だ。家からだとなら40分かか
るからな。

さてと、寮に行くとするかな。

「おお！」

自分の部屋についた俺は思わず大きな声をだしてしまった・・・結
構広いやん・・・俺の部屋より広いぞ！

しかも、一人部屋だぞ！最高だ！・・・と感激していたらいつの間
にか23時58分になっていた・・・時間が経つの速いな。

よし、目覚ましもセットしたし、寝るか

入学式（後書き）

アドバイスをください

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4030z/>

2度目の人生

2011年12月14日00時47分発行